

# 御池通界わいの今と昔

## 今のようす

「今のようす」は平成17年2月の「御池通」のまち歩きツアーで、参加者の方々が話し合われて「御池通」のまち歩きツアーを開催して作成しました。



- 凡例**
- 史跡など(碑のあるもの)
  - 史跡など(碑のないもの)
  - 史跡など(碑のないエリア的なもの)
  - 歴史的意匠建造物
  - 神社など 井戸
  - 警察署・交番 トイレ
  - 消防署
  - 学校
  - 郵便局

## 史跡

御池通周辺には、歴史遺産が多数あります。ここでは、代表的なものを取り上げてご紹介します。平安時代、この辺りでは貴族などの邸宅が多く造られました。また、有名な戦国武将との関わりもあります。

- 資料提供：京都市歴史資料館
- 東三条院址 (とうさんじょういんし) No.1**  
平安時代に隆盛を極めた藤原氏の邸宅跡。醍醐天皇皇子から藤原良房、藤原兼家(東三条殿と称した)の姉を経て、藤原道長に引き継がれました。
  - 閑院址 (かんいんあし) No.2**  
藤原冬嗣により創建。平安時代前半は藤原氏の邸宅。後半は白河上皇、堀河天皇、高倉天皇、土御門天皇等の里内裏でした。
  - 高松殿跡 (たかまつどのあと) No.3**  
平安時代、藤原道長妻の明子(高松殿と称した)が伝説した邸宅の跡。1155年、後白河天皇がこの地で即位しました。
  - 堀河天皇里内裏址 (ほりかわてんのうらとだいらいあし) No.4**  
堀河天皇がここで成長、受禅、崩御されました。平安京の名邸の一つでした。
  - 橋邊勢邸址 (たしばなのいはなりていあし) No.5**  
平安時代の三筆の一人である橋邊勢の邸宅(較松殿と呼ばれていた)の跡。(あとの二人は嵯峨天皇と空海)
  - 二条殿址 (にじょうどのあと) No.6**  
後鳥羽上皇の御所の一部で押小路殿とも呼ばれ、承久の乱(1221)後、連歌で著名な二条良基の邸宅となりました。龍の伝説がある「龍蹊池」があり、庭園が美しく、洛中洛外園風にも描かれています。現在も、民家の庭に池の跡が残っています。これが龍池学区の名の由来です。この池を「御池」と呼んだことが御池通の名の由来とする説もあります。後に織田信長が二条御所をこの地に築造。本能寺の変では信長の長男信忠が自害を遂げた場所です。
  - 豊臣秀吉妙顕寺城跡 (とよとみひでよしみょうけんじょうあし) No.8**  
豊臣秀吉が京都での首都建設の拠点とした妙顕寺城の跡です。古城町の名前の由来になっています。
  - 神明地蔵尊 (しんめいじざうそん) No.9**  
「台石をさすり、頭をなでると知恵を授かる」と言われている真田幸村の知恵の地蔵尊が、高松神明社の境内にあります。
  - 徳川時代金座遺址 (とくがわじだいざんざいし) No.10**  
金座は江戸幕府の金貨(小判)を鑄造する役所で、1600年、家康が江戸と共に設け、銀座は1601年に伏見に設けられ、1608年に当地に移されました。共に明治元年に廃止されました。両替町通、金吹町の名は金座、銀座があったことによります。
  - 徳川時代銀座遺址 (とくがわじだいざんざいし) No.11**

## 昔のようす

昭和10年頃から戦前までの様子を復元しました。地域にお住まいの方がご近所の方などに取材して情報を集められました。こうした情報を集めるのに4年ほどの歳月がかかったそうです。



御池通 懐かしの風景写真館

堀川御池より南を望む(昭和21年頃)<sup>※1</sup>

御池通の整備(昭和27年)<sup>※1</sup>

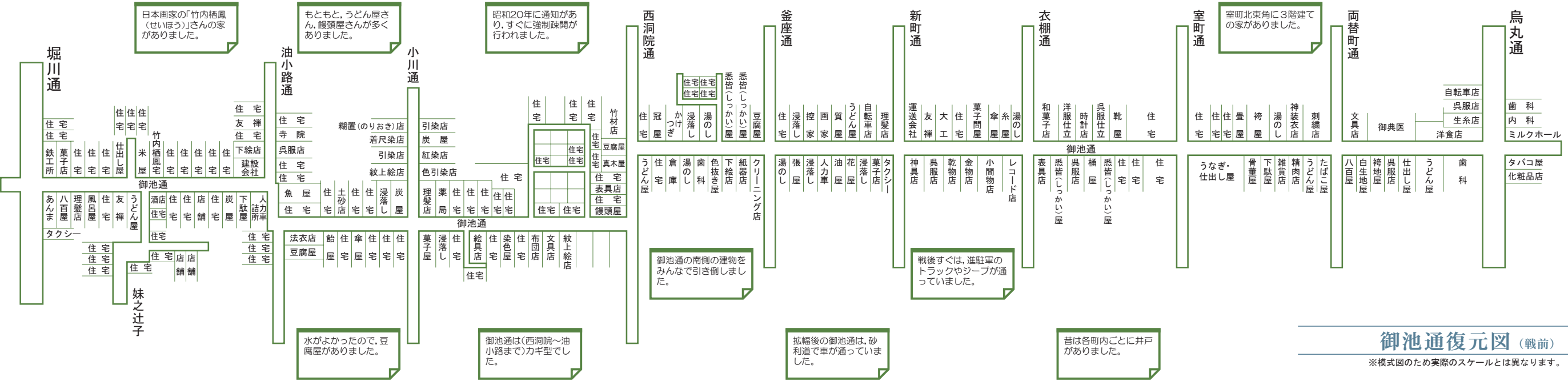
龍池校での体育の授業(昭和3年)<sup>※1</sup>

## 井戸

豆腐、生麩、酒などの京都の食文化を支えてきたのは豊富な京都の地下水だとされています。近年、地下水脈が変わり枯れてしまった井戸もありますが、今も地下水は地域を支える重要な役割を果たしています。(このマップでは、災害時協力井戸を掲載しています)



【写真】キンシ正宗堀野記念館の井戸



御池通復元図 (戦前)  
※模式図のため実際のスケールとは異なります。